

令和7年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

**医療現場の業務DXに資するAI人材育成に向けた学科転換事業  
合同委員会（第2回プログラム開発委員会/実証・検証委員会）**

令和7年12月5日

**資料①**

**進行、並びに第1回委員会での議論まとめ**

# アジェンダ

---

議題1. 第1回委員会での議論まとめ ※説明のみ

(1) プログラム開発委員会

(2) 実証検証委員会

議題2. モデル事業における生成AI活用状況

議題3. 成果展開に向けた対応策について

# 議題 1. 第1回委員会での議論まとめ

## プログラム開発委員会（生成AIを活用した授業の可能性や懸念点）

**議題** 授業準備から「AI基礎」に関する実証授業経験をまとめた動画を事前視聴

### 動画要約

#### 1. 教材の作成

- 動画は30～40分ほどで、作成時間は1本3～4時間。
- 教科書のPDF化、AIで自動化、読み上げ原稿の作成、自動音声読み上げ、手書き補足説明。

#### 2. AIを活用した授業

- 教員が教えないスタンスで、課題を出し、生徒がAIに質問。理解度チェックのテストを実施。
- Pythonの授業例：天気予報の情報引用、アドベンチャーゲーム作成。

#### 3. 学生の反応

- 課題のクリア状況で、個々の学生の状態、悩みのポイントが分かる。
- 生徒の「試行錯誤」への理解。答えのない問いへの姿勢。
- 学校に「自習しにきているだけ？」という声。対面授業の価値をあげること。

#### 4. AIに向き合う姿勢

- 生徒個々人の課題に寄り添うための工夫に。
- AIは時間を作るツールで、使いこなす／使えるところを探す苦労もある。

① AI授業に関する動画へのコメント

② 0から導入に関わった教員からのコメント

③ 意見交換：生成AIを活用した授業の可能性や懸念点について

# 議題 1. 第1回委員会での議論まとめ

## プログラム開発委員会（生成AIを活用した授業の可能性や懸念点）

### 要約

### 1. 活用実績と組織の雰囲気の共有

#### 活用事例

- ✓ AI基礎における課題に取り組むためのツールとして、アカウントを提供(Chat GPT)。
- ✓ 授業準備に利用(授業スライド作成、効率化・属人化防止のための動画作成など)。
- ✓ Chat GPT、Gemini、音声読み上げソフト、学習管理システム上で実装されている機能などを利用。

#### 教育組織としての状況

- ✓ 教員によって利用状況はマチマチ。「まず使う」雰囲気が醸成されているところ。

#### 学習面での効果やメリット

- ✓ 早期の成功体験に基づくAI利用意欲の喚起。
- ✓ 学習状況、つまずきパターンに基づく指導の個別最適化。

### 2. 気になる点

#### 対面授業について

- ✓ 「自習」と変わらないという声にどうこたえるか(個別最適化、相互学習)。

#### 評価について

- ✓ プロセス・結果について、学生が正しく学べていることをどう確認するか。

#### 課題解決力の育成について

- ✓ 生成AI活用だけでは身につかない課題解決力をどうするか。

#### 導入の仕方について

- ✓ どこから、どのように始めるか(ツール選定、最小ユースケース、運用方法、評価など)。
- ✓ どの科目で導入するか。カリキュラムとしてどう設計するか。
- ✓ 時間をつくるツールとして、教師の業務効率化から進めることもあるのではないか。

# 議題 1. 第1回委員会での議論まとめ

## 実証検証委員会（現場での実習を通じて育成すべきポイント）

### 議題

これまでの合同委員会・分科会では出された意見を整理して、生成AIでは代替できない診療情報管理士の6つの専門性カテゴリーについて抽出

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 現場理解と文脈把握力       | 4 課題を発見・構造化できる力 |
| 2 専門知の統合と翻訳能力      | 5 倫理的・法規的判断力    |
| 3 共感的コミュニケーションと調整力 | 6 現場改善と継続的学習姿勢  |

- ① 「生成AIを活用できる診療情報管理士」が実習を通じて身に付けるべき項目のなかで、
  - ・重要だと感じる項目やその理由は。
  - ・足りない項目はないか。
  - ・育成項目を達成するために、どのような実習内容が必要か。
- ② 「生成AIを活用できる診療情報管理士」の実習は、これまでとは異なる新しいプログラムになると想定されるが、新しい実習の企画・受入を行う際に、病院側で障壁となりそうなことはあるか。

# 議題 1. 第1回委員会での議論まとめ

## 実証検証委員会（現場での実習を通じて育成すべきポイント）

要約

### 1. 現場実習で育成すべきこと

育成項目①:課題を発見・構造化できる力

✓専門知識を活用し、他の項目につながる土台となる。

育成項目②:共感的コミュニケーションと調整力/現場改善と継続的学習姿勢

✓現場で重要だが、実際に実習期間内の習得は難しく、雇用後のOJTとの線引も必要。

事前に求めたいポイント

✓プレゼンテーション力、現場でのコミュニケーション・接遇面は重要。

✓項目によって病院の戦略・戦術の理解も必要となるのではないか。

### 2. 育成達成に必要な実習の方向性

受入側の姿勢について

✓実習生の課題発見力や思考の柔軟性を鍛えることの重視。

✓実習生が利用できるデータの内容・取扱いの整理・コンセンサスが必要。

定量的に示せる成果物が理想(例:業務改善策の発見や患者満足度の調査分析など)

✓学生のアウトプットが変わるという形式的な変化。

受入側の準備について

✓課題発見・構造化する対象の事前合意が必要。

(例:医療機関側で示す課題を考える提示式や外来全般を回りながら改善ポイントを探す探索式)

✓実習を担当する部門(教育部門など)とのコミュニケーション。

✓医療施設側がどこまで伴走できるか/すべきか。

## 議題 1. 第1回委員会での議論まとめ

# 本日の意見交換

各委員会における第1回でのコメントを踏まえて、以下の点を意見交換したい。

### ●モデル事業における生成AI活用状況について…資料②

課題解決に主眼をおいた病院実習につながる「課題解決思考」に関する授業、並びに学習管理システム(LMS)での具体的な生成AIの活用方法を説明し、「課題解決力の育成」の観点から、生成AIを取り入れた講義について、それぞれの立場から意見を伺いたい。

### ●成果展開に向けた対応策について…資料③

本モデル事業の成果を広げていく上で、重要な関係先となる「教育機関」と「医療機関」に対して、効果的な対応策は何か、を議論したい。

昨年度第2回合同会議資料から作成  
⇒変更点があれば更新を要する

## 補足) カリキュラム全体から見た生成AIの導入状況

- 新・育成カリキュラムでは、診療情報管理士と医療情報技師の認定取得に限定し、デジタルリテラシー（AI、データ分析等）の向上や病院実習に時間を再配分。
- 1年次に、直接取り扱う科目は「AI基礎(※)」で「Chat GPT」のみ利用。
- 講座「課題解決思考(※)」でも扱っているが、あくまで補助ツールとしての利用。
- その他、講師の授業準備等の業務効率化や、学習管理システム(LMS)上で導入。

※いずれも60コマ（1年次は全820コマ）



## 補足) ディプロマ・ポリシーから見た生成AIの導入状況

- ディプロマ・ポリシー (※) との対応関係としては、主にDP④、次いでDP③の中で、生成AIを導入した授業を盛り込んでいる。ただし、予定を含む。

※ 卒業認定をする上での方針 (どのような知識・能力を身に付けた学生に対し、卒業を認定するか)

